

現場と密に連携図る 社長が訪問、レク支援

日本シニアライフ



森薫社長

日本シニアライフ(東京都港区)は、「デイサービスラスベガス」を始め、介護付有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、訪問介護などを展開している。森薫社長に、法人として力を入れていく取り組みや今後の展開について話を聞いた。

事業の概況について

現在、関東、東海、中部圏と、滋賀県、徳島県、宮崎県に事業所を開設している。主要なブランドであるラスベガスは、直営8店舗、

加盟店が14となっている。レクリエーションにゲームの要素を取り入れていることが特徴。機能訓練で獲得できる施設内通貨の導入や黒色フロンボックスの

ガスでは7割が男性

だ。コロナ禍の影響で稼働率の低下もあったが、現在は平均8割程度まで戻っている。高齢者は外出控えにより、デイの利用を休止し、

法人概要

所在地：東京都港区
拠点数：52カ所
設立：2019年

■2019年にフードサービス事業などを展開するACANextより分社化。展開ブランドは、介護付有老「湖郷の彩風 彦根」、訪問介護・看護「にじのさと」、通所介護「デイホーム ゆりの木」「デイサービスラスベガス」、サービス付き高齢者向け住宅及び住宅型有老「あじさいのもり」「レジデンス」。

「デイにゲーム要素を取り入れた背景は、現場に携わっている18年以上前のこと。デイに「行きたくない」という利用者や、「行って欲しい」という家族のすれ違いに悩んでいた。日本エルダリーケアサービスの社長に就任した際、かつての経験から新しいデイを立ち上げたいと考えた。その参考として海外視察を計画。福祉先進国の北欧に行く案もあったが、高福祉・高負担のモデルは日本では難しいと考え、その真逆と思われるアメリ

部からバックアップする。スタッフの教育では、社内独自のコミュニケーションルールを共有することに加えて、様々な事例を基に細やかな心配りを欠かさないことを徹底。例えば、社員の役割を細かく分担し利用者が心地よく過ごせるように支援する。至極当然のことだが、質を高めるにはそうした小さなことの積み重ねが重要だ。

今後の展開について

現在、サ高住・住宅型有老は計9棟となっているが、既存事業所などがある地域を中心に、年2棟ペースで増やしていく。新設のほか、M&Aも行って8月にはサ高住を取得した。

認知症の疑い判定容易に

眼鏡型デバイス用い研究

富士フィルム/東京都健康長寿医療センター

富士フィルム(東京都港区)と地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター(同豊島区)は11月7日より、AI技術を活用した新たな認知症スクリーニング検査手法について共同研究を開始した。受診者にとって負担が少なく簡便な認知症スクリーニング検査手法の確立を目指す。

エアラブルデバイスを用いて対象者の目や身体の動きといったデータを取得。それをAIによって解析し認知症の疑いの有無判定に有効なデータ指標を特定する。次のステップとしてデータ指標に基づき、認知症の疑いを判定するアルゴリズムを構築、そのアルゴリズムを用いた認知症の疑いを判定する症例の収

集・評価を行う。今回の共同研究の着眼点は、認知症の中核症状として知られる運動機能の低下を、眼鏡型ウェアラブルデバイスによって目や体の動きに関するデータから判定すること。多くの

運動機能低下を 目の動きで判定

MRI画像検査などが必要なため受診者にとって負担が大きいことにある。認知症の早期

発見・早期の対応を可能とするため、より多くの人が簡便に受けられる新たな認知症スクリーニング手法の確立に向けて研究を進める。

ハラスメント相談窓口

在宅医療・介護者向けに

埼玉県

埼玉県は1日から、県内の在宅医療機関や介護事業所向けに、暴力・ハラスメントなどに関する専用相談窓口を開設した。患者・利用者やその家族などからの暴力行為、迷惑行為、ハラスメントについて相談できる。対象となるのは、県内の在宅医療に携わる病院、診療所、歯科診療所、薬局、栄養ケアステーション、認定栄養ケアステーションの職員。相談方法は電話かWEBで、電話の場合は平日の9時～19時、WEBは24時間毎日受け付けている。

県は今年3～7月に「在宅における医療・介護の現場で患者・利用者・家族などから暴力・ハラスメントを受けたことがあるか」という質問に、「ある」と上った回答が50・7%に上った。暴力・ハラスメントの内容は、脅迫

などの「精神的な暴力」が52・0%、「セクシャルハラスメント」が28・0%、「身体的な暴力」が20・0%となっている。「暴力・ハラスメント対策を充実させるため、今後必要だと思われる」と(複数回答あり)については、「機関・事業所内で報告・相談しやすい環境をつくる」が252件で上位に挙げられている。

ころやわ

- 転倒時のみ 柔らかい
- 骨折リスクの低減
- 設置簡単 工事不要 床に置くだけ!

日本では1年間で高齢者の3人に1人が1回以上転倒すると言われています。特に屋内での転倒が多く、骨折した場合は長期間の安静が必要となります。ころやわは歩行時の安定性はもとより、車いすでの利用も可能で、転倒時は高い衝撃吸収性を発揮し、転倒による骨折から高齢者を守ります。



分割できて設置が楽々
スロープ仕様で移動もスムーズ
転んだときだけ柔らかい置き床
株式会社エクセレントケアサポート
Tel.075-744-6512 Fax.075-744-6547
〒600-8025 京都市下京区河原町通松原上る清水町280-1
受付時間(月～金/9:00～18:00) https://excare-s.co.jp/

介護Biz